

令和7年度秋田県放課後児童支援員等認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

<県南会場>

科目 ⑤児童期（6歳～12歳）の生活と発達

- ◆ ワーク演習の「短期記憶の体験」では、なかなか数字を記憶することができませんでした。児童期の発達過程の記憶は、とても難しいことが分かり、繰り返しの大切さを知ることができました。小学生から中学生へ上がるまでに、たくさんの発達の過程があり、それらをしっかりとフォローしていくことが私たちの仕事であると思いました。
- ◆ 子どもは学校生活の中で、自らの成長を自覚し、まだ解決できない問題にも直面して他の子どもと自分を比較しながら葛藤も経験するとありました。それは自分を評価できるようになったということなので、健全な成長過程であることも知りました。また、子どものことを理解する気持ちをもつこと、そのためには子どもの発達についての見通しや判断に目を届かせることが大切だと学びました。子どもたちから学んだことを少しでも返すことができる自分でありたいと思います。
- ◆ 児童期は、低学年、中学年、高学年に区分されているが一人ひとりの発達の過程でも個人差があり、特に低学年は保育園や幼稚園との生活の違いに影響を受け、生活リズムも変化しているので、発達特性を正しく理解して、それに基づいた適切な配慮が大切だと学びました。遊びや生活の中で、子ども同士のトラブルもあり対応も難しいと思いますが、信頼関係を築いていけるように支援していきたいです。
- ◆ 児童期前半には書き言葉や数量概念に進歩が見られ学習を通じて知識を増やしていくこと、後半には特定の物事や場面にとらわれるのではなく、一般的本質的なものを捉える概念的な思考が形成されることを学び、子どもたちの生活や発達を支援する児童クラブの過ごし方も大切だと感じました。また、発達過程と領域についても認識の体験をすることもでき、継続的な学習の重要性を感じた科目でした。
- ◆ 児童期は心も体も大きく成長し、自立や人との関わりを学ぶ大切な時期だと思いました。学習や遊び、友達との関係で社会性が育ち、自分の考えをもつようになる。その発達段階を理解し、子どもにあった関わりをすることが大切だと思います。成長を支えるためには、支援員もいろいろ学びながら、子どもの変化に気付ける力を身に付けなければならないと思います。